

---

# 仕方ねえだろっ！

ネッシー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仕方ねえだろっ！

### 【Nコード】

N1546F

### 【作者名】

ネッシー

### 【あらすじ】

俺は最近おかしい、あいつを見るとドキドキする。っていつかあいつ男じゃねえかつ！！

## （前書き）

ギャグテイストですが、ほんの少し下品な表現があるので、苦手な方はご注意ください。

俺は最近おかしい…

同じ大学に通っている高津ヒロを見るとドキドキする。

はつきり言って意味わからねえ

ヒロとは大学に入って会って、何となく気があって、それとなく一緒にいる。

まあそんな感じの友達

俺が180位あってヒロはもう少し小さい。

別に色っぽい訳でも無く、超美形と言う訳でも無いけど、なんか一緒にいると楽しいし安心する。

ただそれだけのハズだったのに、  
それプラス変な感情が芽生え始めた、俺はこんな感情知らねえ…。

なんか、離れたくないというか、近くに居たくないというか矛盾した感情。

他の人に話し掛けて欲しくなくて、自分一人で独占して、抱きしめて……

…

って、俺何考えてんだよっ！！

あいつ男だぞっ！！

いやいや、ちげえよこれは恋とはちげえ、  
だって俺、可愛い女の子と付き合った事あるんだ！

あの、愛しいとか一緒に居て楽しいとか思うのが恋なんだ！

今の感情とは全然ちげえ！

今は一緒に居るのが苦しい時があって、ヒロが他の奴と話している  
とムカムカして…

ずっとこっちを向いてて欲しくて、  
あの柔らかそうな唇にキ……

…

…だっかあら、ちげえっ!!

俺の初恋はカナちゃんだぁーっ!!!!

はぁ、はぁ…

よ、よし、落ち着くんだオレ…

すうー、はぁー…

…

おっ、あんな所にヒロがいる

…

心拍数が上がった気がするのは気のせいだ! ( 自分に言い聞かせてる )

：

ってか何であいつ不良っぽい奴に絡まれてるんだよっ？！

何だよこのギャグ小説みたいな展開っ！！

「おい、止めるよ！」

「別に良いだろ？ 俺、高津の事好きなんだよねえ」

「はあ？！ いやいや何言っちゃってんの？マジで？」

これはあくまでも友達として助けるんだ！ やましい気持ちなど断じて無いっ！！

「おう、マジ×2 高津をオカズにして又いてんぜ？」

「いやいや、マジで有り得ないから……」

俺はあんな卑劣な奴とはちげえ！

だ、だってヒロを、お、オカズとか…

…

ち、ちげえよっ！ あれは不可抗力だったんだ！！

「なあ、一発やらせてくれない？」

「マジで無理です。ごめんなさい。」

ただ助けるだけだぞ、向こうに行って、ただ止めろって言うだけ…。  
『友達』を助けるだけ…

「まあ、どうせムリヤリしちゃうんだけどな」

「おい、マジ本気で止めろ！ シャレになんねえ！  
て、てかどこ触、ってんだ！ あ…」

友達を助けるぞ！ 友達、友達だ！



友達、と、もだち…

「お、おい、ヤメロよ…」

「かわいいなあ〜」

「ち、くしょう、ユ、ウト…」

ブチッ

「てめえっ!! 俺のヒロに触んじゃねえ!!」

不良っぽい奴を思いつきりぶん殴る

ズドンと鈍い音がして不良はヒロと離れて転がった、  
そして頬を抑えながら起き上がる

「イテテ…、やっぱりお前らデキてたのかよ!」

「うるせえ!!!俺の純粋な片思いだ!!!!」

その後もなんやかんや言い合って、不良はどっかへ行ってしまった…

気まずい沈黙が流れる…

そしてヒロが口を開いた

「ユウ…

「いやぁーマジでゴメン！ さっきの忘れて、つい感情的になっちゃってさぁー」

が、拒否の言葉を聞きたくなくて言葉を遮った

「あ、でも、男に好きとか言われて気持ち悪いよな、俺だって言われたら気持ち悪いし…」

「ユウト」

「っていうか俺ら付き合ってるとか噂されてたのかなぁ？ そんなに一緒にいるつもり無かったのになぁ」

「ユウト…」

「でも、安心しろよ？ もう近づかねえし、俺も避けるようにするから心配すん…」

「ユウトツ！…！」

ヒロの大声で俺の言葉がかき消された

一瞬の静寂が流れた…

「お前はそれでいいの？」

そんなの、はつきり言って良いわけ無い、でも、俺のせいでヒロの人生までメチャクチャにしてしまう訳にはいかない…。

「っていうか男好きになったとか人生最大の汚点？ マジでありえねー」

俺の今の精一杯の笑顔で言ってる

俺は…やっと気づいた。ヒロがそういう意味で好きなんだと

俺はヒロの幸せ為だったら何だってする。

世界中の人を敵にしたってヒロだけは命をかけて守ると誓える…。

好きだと自覚したら色んな感情が出てきた、こんなに好きだったんだ

こんなに人を好きになるなんて、この感情はヒロが好きすぎて気が  
つかなかった。

大切に…大切に…、ずっと一緒に居たい…。

でも、ヒロには後ろ指さされるような事は絶対させない！

俺と付き合うなんてもってのほかだ！

あんなに良い奴をほっとく女なんて居ない  
俺がいなくてもヒロは幸せになれる、

でもその恋は近くに居たら応援出来ないと思う…

だから離れる…

俺がツラくたってヒロが幸せならそれでいい

俺の幸せはお前だヒロ…

だから…

「俺にもう近づくなよ?」

ヒロは黙っていてその表情からは何も読み取れない

…

長い沈黙が流れた…

「じゃあ、もう俺行くな」

もう二度と会わないんだと、心に決めて、不自然なくらい明るい声で言う。

悲しい顔なんてヒロにも俺にも似合わない、最後まで笑顔でいた  
い。

決心して俺が行こうとしたとき、ヒロに服の裾を掴まれた

「…待、てよ」

一応、予想の範疇の反応なので振り向いて応える

「なに、どうしたの？ 俺と一緒に居たらさっきの奴みたいに襲っちゃうぞ？ みんなの前とかでキスとかしちゃうかもなあー」

そしてコイツの優しさにつけ込む

「それにさあ、俺ホントは女の子と恋愛したいんだわ。  
なのにヒロなんか好きになって頭冷やしたいなあと思うし、近くに居たく無いんだよね」

これが最低な行為なんだと分かった上でやっている。

全てヒロの為に…

袖を掴まれた手にギュッと力が入った…。

「俺は一緒に居たい…。」

なな、なんて事を言い出すんだこの子はっ！？

その言い方はちょっと俺、誤解しちゃっぞ？

「ヒロ、お前、俺の事好きだったの？」

「はぁ？　んな訳ねえだろ？　まあ好きっちゃ好きだけど、それは



友達としてだ！」

「じゃあ…」

「うるせえっ！ 俺の友達あんまいねえんだぞ！ こんなに良い友達を失いたくない！」

いや、嬉しいけど…

「お前にはたくさん友達が出来るって、彼女だっですぐ出来る。俺が保証する」

「うるせえ！うるせえ！ なんてお前そんな平気な顔してそんな事言えんだよ！」

心の中ではグチャグチャだけどな

「ゴメン…」

「どうしたら、お前と一緒に居られる…?」

おれはこの時、良いことを思いついた

「俺にキスしてくれたら良いぞ？ お前のファーストキス」

「…」

ニコツと笑って言うてやると、ヒロは案の定、口をアホみたいに開いて固まっている

「こんな事考えている奴と一緒に居られないだろ？ じゃあな！」

よし、今度こそ終わりだと、ヒロの手を外し誰もいない教室を出る

決心したにもかかわらず、やっぱりヒロは愛しく想う。

家に帰ったら思いっきり泣こうとか考えてたら、後ろからタッタタ…と足音が聞こえて、  
何だろうとか思っ  
て振り向いてみると…

顔を両手で挟まれて…  
思いっきり下に引かれて…

唇に柔らかい…と、いうか…

歯にガチンつと歯が当たる感触…

い、色気ねえ〜とか思っている

顔をすぐに離れたヒロが顔を真っ赤にして一言

「い、一緒に居ろよ!..」

俺がポカーンとしてると..

「ハイ!つて言えっ!..!!..!」

「は、ハイ!」

ヒロはその真っ赤な顔のまんま走り去っていった。

俺は今、目の前で起こった事が信じられなくて、その場へたり込んでしまう

「なんだよ...それ...」

真つ赤になった顔を隠すように両手で覆い、今走り去った可愛い生き物を思い出し。

顔がにやけるのが止められ無かった。

） e n d （

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1546f/>

---

仕方ねえだろっ！

2010年10月15日03時34分発行